

目次

番号	分野	タイトル	ページ
1	自動車	新車ブレーキ新規（GB21670-2025乗用車ブレーキシステム技術要求及び試験方法）： デフォルト状態でのワンペダルモードの禁止+ABS強制装着	P4
2	電池	中国固体電池量産のスピードアップ！	P5-P6
3		世界初！グラフェン全固体電池が量産化へ	P7
4	充電器	BOE-New n マルチメディア充電器	P8
5	ESS	全国初の地中埋設式エネルギーストレージプロジェクト	P9
6	特別レポート	中国側ペロブスカイト太陽電池現状調査報告書	P10-P19

Part1：自動車

出典: <https://baijiahao.baidu.com/s?id=1836956347134548140&wfr=spider&for=pc>

新車ブレーキ新規（GB21670-2025乗用車ブレーキシステム技術要求及び試験方法）：デフォルト状態でのワンペダルモードの禁止+ABS強制装着

●2025年7月7日、工業情報化部は正式に情報を発表し、中国は2026年1月1日から新しい乗用車ブレーキシステムの技術要求と試験方法を実施する。新国家基準は技術規範を明確にすることにより、乗用車のブレーキ安全性能をさらに向上させ、特に新エネルギー車の特徴について細分化して規定した。**2008年に発表された旧バージョンに比べ、新基準は電力伝送ブレーキシステム、電力回生ブレーキ要求、非常ブレーキ信号要求などの内容を追加し、同時に駐車解除、ブレーキライニング摩耗検査、電子駐車ブレーキの電氣的故障などの内容を修正した。**

新基準によると、新たに型式承認を申請した乗用車のすべて車種に対して、ABSの装着を強制的に要求する。成熟した能動的安全技术として、ABSは非常制動する時に車輪のロックを効果的に防止し、運転者が車両制動中の安定性と操作性を維持するのを助力し、それによってブレーキサイドスリップ、オーバーステアなどのリスクを低減し、走行安全係数を高めることができる。

新基準は新エネルギー車に普遍的に搭載されている運動エネルギー回収システムに対して、肝心な要求2点を提出した。①車両がデフォルトの作動状態でアクセルペダルを離すだけで駐車まで減速することを禁止する、いわゆる業界で通称の「ワンペダルモード」はデフォルト設定としてはいけない。これは、運転者が長期ワンペダル操作に依存することで非常時のブレーキペダルへの反応が遅れないようにするためである。②運動エネルギー回収システムによる減速度が 1.3 m/s^2 を超える場合、車両は自動的にブレーキランプを点灯させて、後方車両と他の交通参加者にはっきりと知らせ、追突などの交通事故の発生を減少させなければならない。

型式承認を受けたストック車種に対して、業界のスムーズな移行を確保するため、新基準は過渡期を設置し、**2027年1月1日から正式に実施する。**



中国固体電池量産のスピードアップ！

AXXIVA 1.25GWh生産ラインサンプル完成

2025年7月4日、**AXXIVA**は、GWh級固体電池生産ラインの最初のサンプルが順調にオフラインになったと発表した。これで、中国のGWh級生産能力を備えた固体電池生産ラインは7本に増加する見込みがあり、他の30本以上のパイロット試験ラインは加速的に推進されている。

この生産ライン全長は35メートル以上、設計生産能力は1.25GWhに達した。**従来のリチウム電池の生産プロセスをシンプル化し、ドライ製造技術を採用し、固定資産投入を30%削減し、エネルギー消費を20%近く削減した。**また、生産ラインには高圧塗布技術も使用されており、異なる固形分のスラリーに適応可能、動的フィードバック制御システムと組み合わせてミクロンレベルの塗布精度を実現する。

この生産ラインは現在半固体電池の製造に集中しており、初ロットの新型固体1.0電池サンプルはすでに新国家基準GB38031-2025と厳格な針刺し試験に合格した。超高い安全性を備え、且つ流動電解液がないように設計されている。**一世代目の製品はエネルギー密度が300Wh/kgを超え、二世代目の400Wh/kgのサンプルが試作中、2027年までにエネルギー密度が500Wh/kgを突破する三世代目の全固体電池を出す予定である。**

新しく建設されたGWh級固体電池生産ラインは、AXXIVA計画の5GWh固体電池研究開発センターと高統合自動化生産ラインの一部である。会社は蕪湖経済開発区と共同で18億元を投資し、**新型固体電池産業園の建設**も計画している。



中国固体電池量産のスピードアップ！

7本のGWh級固体電池生産ラインが加速推進中

会社	進捗
清陶新能源	2018年に建設し、生産能力は0.1GWhで、2020年に世界初の1GWh固体動力電池の量産を実現した。
衛蓝新能源（WELION）	2021年にGWh級プロジェクトを配置し、2026年までに20GWhの総生産能力を達成することを目標としている。
輝能科技	2021年半固体電池の年間生産能力は1GWhに達した。
赣锋锂业(Ganfeng Lithium)	パイロット生産ラインからスタートし、2022年、生産能力が2GWhまで拡張した。
蜂巢能源(SVOLT)	2025年にエネルギー密度が350-500Wh/kgの固体電池車載活用を実現することを明らかにした。
中固時代	2025年に固体電池のパイロットラインの建設を開始する予定で、10月に生産が開始される予定である。年末までに2GWhの超大容量固体電池生産ラインの建設を開始する予定がある。
合源锂創	2025年に江蘇淮安で1GWhの固体電池の量産ライン建設を開始する予定で、将来的には3期に分けて総生産能力が10GWhに達する固体電池生産ラインを建設し、最初の製品は2025年11月にオフラインになる見込みである。

上記プロジェクト以外、全国に30本余りの固体電池のパイロットラインが同時進行中。業界の予測によると、2027年までに中国の固体電池の出荷量は18GWhを突破する見込みがあり、2030年に固体電池は動力と蓄電池の中で10%程度の市場シェアを占める。

世界初！グラフェン全固体電池が量産化へ

- 2025年7月1日、国家グラフェン連盟は**世界初のグラフェン全固体電池の大規模量産化**に関する発表会を開催した。

このグラフェンの全固体電池の性能は以下の通りである。

エネルギー密度が高い:グラフェン全固体電池は従来の電池に比べてより高いエネルギー密度を備えており、EV車の航続距離を大幅に向上させることができ、2000kmを突破して、EV車、ESSなどの分野に品質的な飛躍をもたらす見込みがある。

充電効率が高い:趙猛院士チームが開発した**グラフェン複合導電材料**を採用することで、充電効率が300%向上し、携帯は「セカンドチャージ」時代を実現し、新エネルギー業界の充電不安問題を効果的に解決することができる。

安全性が強い:従来のリチウム電池の安全上の危険性を徹底的に解決し、固体電解質は燃えにくく爆発しやすく、さらにグラフェンの優れた熱伝導性を加えることで、電池の発熱、発火リスクを効果的に低減し、新エネルギー車などの応用により安全な保障を提供することができる。

使用寿命長い:グラフェンは電池のサイクル寿命を向上させ、電池をより長持ちさせ、電池交換頻度を減らし、使用コストを下げる可以降低。

Part3 : 充電器

出典: <https://mchd.in-en.com/html/chd-2449217.shtml>

BOE-New π マルチメディア充電器

●2025年6月11日午前、京東方エネルギーは「NEW π マルチメディア充電器」の新製品発表会を開催した。

この製品は京東方エネルギー科技の最新の分体型フレキシブル充電方案を採用して、250kWのフレキシブル直流急速充電で、自動車 2 台を同時に充電する強大な能力を備えている。

表裏面に55インチのディスプレイ各1枚と10.1インチのタッチパネル1枚を装備する。55インチ屋外用液晶ディスプレイについて、1500nitの超高輝度と-20℃~70℃の広温度動作特性を持つ。10.1インチのタッチパネルは操作が簡単で、充電プロセス全体を簡単に把握できる。

同時に、充電器の異なる色の呼吸灯のデザインは、遠くからでも迅速かつ直感的に充電器の作動状態を確定できる。



全国初の地中埋設式エネルギーストレージプロジェクト

●最近、浙江沃橙新エネルギー有限会社が自主的に開発した地中埋設式エネルギーストレージ技術は、順調に中国電工技術学会エネルギーストレージ分野の段階的な審査に合格し、建設に投入した。今回の地中埋設式エネルギーストレージ「星曜石」システムは、蓄電規模が522KWhで、敷地面積が40㎡しかなく、本質的な安全特性を備えており、季節要因の影響を受けず、変換効率が98%に達している。埋め戻された後、地面は必要に応じて栽培または硬化することができ、100%地面のスペースを節約して、企業に低炭素エネルギーソリューションを提供する。このシステムは従来のエネルギーストレージ製品の露天配置の多くの痛点に対して、本質的安全、空間最適化、知能マトリックス、極寒耐性、効率向上などの五大次元の技術突破を実現した。



ご清聴頂きまして有り難うございました!